

第3回富士見市環境審議会会議録

日 時	平成29年11月10日（金）			開 会 午前9時00分	閉 会 午前11時45分
場 所	市長公室	出席者数	委員定数15名中 出席者12名		
出席者	委 員	澤田会長、須田副会長、木内委員、中村委員、横山委員、京谷委員、千種委員、守山委員、関根委員、羽石委員、細田委員、高橋委員 ※欠席 齋藤委員、大谷木委員、戸塚委員			
	事 務 局	【事務局職員】 益子環境課長、谷合環境課副課長、横田環境課主査、細谷環境課主事、（株）環境総合研究所 寺山、藤本			
配付資料	1 次第 2 資料1：第2次富士見市環境基本計画の中間見直しに伴う施策体系について 3 資料2：第2次富士見市環境基本計画の後期実践行動について（平成30～34年度） 4 参考資料1：第2次富士見市環境基本計画中間見直しに伴う目次について				
公開・非公開	公開（傍聴 0名）				

内 容	
第3回環境審議会	
1 開会 環境課長	
2 議事 澤田会長	
【議事要旨】	
	（会長）本日は次第にある通り、計画の中間見直しに伴う施策体系と計画の後期実践行動について委員の皆様からの意見を頂戴する。

《事務局から概略説明》

1. 第2次富士見市環境基本計画の中間見直しに伴う施策体系について

・「1 現行計画」では、望ましい環境像や基本目標が実際にどのような繋がりになっているのかを再度整理した。

・「2 見直しに当たっての考え方」では、本審議会及び庁内検討委員会の委員からこれまでにいただいた意見を踏まえ整理をした。また、参考までに改定案の目次を添付する。

2. 第2次富士見市環境基本計画の後期実践行動について

・今後の実践行動案を検討するため、[整理前]と[整理後]としてまとめた。[整理前]は実際に担当課で行っている実践行動であり、[整理後]は資料1に基づき再整理したものである。また、変更点・理由の欄は、整理にあたって何を統合・移行したのかなどを示している。

《審議内容》

(基本方針：生き物を守り育てよう)

〈委員〉生き物がある河川やビオトープをしっかりと保全していかなければならない。動植物生息状況調査を市が実施しているが、調査自体が目的になっていると感じるため、富士見市の生物多様性戦略として、どこにどんな生物が生息していて、どこにどんな外来種が生息しているかを明確にすべきである。

〈委員〉貴重な生物がどこにいて、その生息地を守ることが必要であるというアピールを市民に示すべきである。ぜひ他市で作成している計画等を参考にいただきたい。

〈事務局〉生物多様性については、次期計画につながるような取組や施策を入れられるようにしたい。

〈委員〉「住民にとっての住みやすい快適な生活を送れるまちを目指します」ということを議論内容に入れないで審議会の議論が今進んでいるような気がするので、その内容を踏まえうえで議論すべきである。

〈委員〉それは先ほど事務局から説明があった削除した部分の「地域防災」に該当するのではないか。この後、出てくる該当のところで削除について再考すべきかを検討すればよい。

〈委員〉一般論として、災害があった場合、行政では防災計画や河川・下水の関係から市として新河岸川に流す量に制限があると思う。心配だと感じている点は防災計画や河川関係の部署などに伝えた方がいい。

〈委員〉この5年でどうしても緊急に追加すべきことがあれば、追加すればよいのでは。

〈事務局〉防災に関しては、基本的には地域防災計画の分野と考えている。

(基本方針：里地里山を守り育てよう)

〈委員〉「里地里山を守り育てよう」の中に「有害鳥獣」が入っていたり、また、「生き物を守り育てよう」の中に「景勝地の保全」が入っていたりするが、方針として合致していないように感じる。例えば「景勝地の保全」は「里地里山を守り育てよう」ではないか。有害鳥獣・外来種についての内容は「生き物を守り育

てよう」ではないか。

〈事務局〉景勝地に関しては里地里山に移行している。「外来種の駆除」は在来種を守るという意味で掲載しており、「生き物を守り育てよう」の中がよいと考える。

〈委員〉富士見市の里地里山というところになるのか。

〈事務局〉びん沼自然公園のほか、諏訪の森、谷津の森など、公園マップの都市公園以外のところが里地里山と認識している。

〈委員〉石井緑地公園や民家でもカタクリが咲くようなところがあり、そういった場所も里地里山と考えられる。

〈委員〉湧水が多く出ているところは里地里山と繋がりが多い。

〈委員〉外来種と有害鳥獣は一緒にできないのか。

〈事務局〉外来種とはもともと日本に生息していなかったのに、海外等から入ってきた生物を指す。一方有害鳥獣は、人家に侵入し糞尿や作物を食べ荒らすことなどにより、人に被害を及ぼす生物を指す。有害鳥獣の場合には、許可を取って駆除することができる。アライグマは外来種であり、有害鳥獣でもあるため、両方に掲載している。

(基本方針：水を大切にしよう)

〈委員〉このタイトルでは水辺環境や生活排水についての内容は合致していないように感じるので、「水を大切にしよう」という文言よりも、「地球温暖化対策に関連した省資源」の方が内容に合致していると思う。

〈事務局〉基本方針の名称は変更することは可能である。なお、省資源という部分に関して言うと、今回の案では、節水などの取り組みは、基本方針「資源を大切にしよう」の「省エネルギーの推進」内にある取り組みとして触れることとしている。

〈委員〉“節水”は、おそらく“川の水を汚さないようにしよう”という意味であったと思う。

〈委員〉身近な水路を見ていて感じることは、10月に入ってから長雨によって水量が増えつつあるが、一時期とはいえ9月頃までは、水路の水が減っていることは深刻な問題であると考えます。地下湧水を誘導するような施策は残すべきではないか。

〈事務局〉委員の意見を踏まえ、水を大切にすることにしぼらず、広く水辺環境を守っていくという主旨の表現に変更します。

(基本方針：快適な生活空間を作ろう)

〈委員〉防災計画の推進関係を今回削除する予定だが、「地域防災計画」の見直しを行う予定はあるか。

〈事務局〉現在、見直しを行っている。

(基本方針：健全な生活を送ろう)

〈委員〉新たに追加した災害廃棄物処理計画の策定は、災害対策本部などで行うべきで

あり、環境分野での対策は違和感を覚える。市民目線から見て、環境基本計画の中に災害対策の計画を入れるというのは、災害が起こる前提の話になっているように感じる、

〈事務局〉 災害廃棄物対策については、防災対策の中で行うという認識でもいいのではないかと意見もあった。

〈委員〉 災害が発生した場合、廃棄物量が多量に発生するため、本計画では対応しきれないのではないかと。

〈事務局〉 委員の意見を踏まえ、災害廃棄物は、本計画の対象からははずす。

〈事務局〉 災害時の再生可能エネルギー活用についてはどうか。

〈委員〉 表現はこのままで良いと思う。

〈委員〉 以上のことを踏まえると、「安全・安心なまちづくり」の内容が空間放射性物質だけになってしまう。現在、原発事故の影響は富士見市では確認されておらず、これだけをこの項目に入れるのは違和感がある。

〈事務局〉 同基本方針内の「身近な生活環境の保全」に加えることとする。

(基本方針：資源を大切にしよう)
(特になし)

(基本方針：温室効果ガス吸収源対策に取り組もう)

〈委員〉 再生可能エネルギーの項目で、市民ができる太陽光発電の取り組み内容が出てこない。雨水や再生水の有効活用は市民には難しいため、太陽光発電についてもっと強調してもいいのではないかと。

〈事務局〉 市民への太陽光発電の啓発は、「省エネ・再生可能エネルギーに関するキャンペーン」の中で強調し行うこととしている。また、雨水などの再生水については、庁内で整理した後、市民や事業者に対してどのように進めていくかを考えていきたい。

〈委員〉 温室効果ガスの吸収源対策について、公共施設の壁面や屋上などの緑化と記してあるが、どちらかというとな緑の保全という部分が多い。再掲になるかもしれないが、緑の保全がいかにか大事かを示すためにも削除としてある「社寺林・斜面林・緑地の保全」を残した方がいい。

〈事務局〉 社寺林・斜面林については削除せず、再掲表示にする。

(基本方針：ゴミを減らそう)

〈委員〉 「エコライフの推進」が「ゴミを減らそう」の中に入っていることに違和感がある。

〈事務局〉 様々な内容の取組内容が現行計画上表記されているので、再度精査し、ごみ・省資源・協働型に区分して整理する。

(基本方針：スマートムーブに取り組もう)

〈委員〉 温暖化の防止を考える際、これまでの議論にもあったと思うが、温室効果ガス

を減らすという緩和策のみではなく、基本方針の中に適応策を進めていくという内容を入れた方がよい。

〈事務局〉地球温暖化対策には、「緩和策」と「適応策」の2つの方法があり、これまでは緩和策が中心になっていた。今後適応策が重要視されていることを認識しているので、見直しでは適応策を含めて整理したい。

(環境目標：みんなで学び、行動するまちを目指します)

〈委員〉新たに「地球温暖化の防止に関する項目」を加えて、「みんなで学び、行動するまちを目指します」の中に皆で地球温暖化を防止する内容の項目を盛り込むことにより、家族を中心に盛り上がりいい方向に進むと思う。

〈事務局〉地球温暖化関係の内容を入るよう検討する。

(その他)

〈委員〉何かマップを資料編に入れられるか。

〈事務局〉簡単なマップを入れることは可能と考える。

〈事務局〉資料編で現在考えているのは、湧水の調査を新たに行っているため、湧水マップに新たに里地里山の関係が触れられればと考えている。

〈委員〉緑のネットワークなどの概略編にいろいろな要素を網羅できればわかりやすくなると思う。

〈委員〉湧水マップ作成の際には、県のふるさと緑の景観地や緑の散歩道などに、市が借りている場所を入れてもいいのではないかと思う。

〈委員〉富士見市の特徴的なものを入れて欲しい。例えば、水子貝塚公園は縄文時代に温暖化により、海面が上がってきた証拠である。このまま地球温暖化が進めば将来的にどうなるか予測できる。富士見市はいい遺跡を持っているということ強調し、地球温暖化が密接に関わっていることを身近に感じるようになるのではないか。

〈事務局〉今回の見直しでは、計画の中にコラムを載せることを考えている。温暖化対策の項に、水子貝塚資料館にあるような富士見市の昔の話が載せられるといいのではないかと考えている。

〈委員〉縄文時代に温暖化により、海面が上がってきた。まさにその場所が富士見市だとわかるようにすると良い。

〈事務局〉工夫して、計画の本編で見られるようにコラムのような形で入れたい。

〈委員〉用語の解説ページが欲しい。

〈事務局〉ページの下にまとめようと考えていたが、別でまとめたほうが良いか再度検討する。

〈委員〉参考資料1について、自然的条件の1つ目に「温室効果ガスの経年値を掲載」とあるが、これは自然的条件ではなくて社会的条件に入れるべきではないか。

〈事務局〉修正する。

3. その他

(今後の予定について)

《事務局からの概略説明》

第1回目に示したスケジュールに変更がある。パブリックコメントを1月中に行いたい。最終的な計画案は、いただいたパブリックコメントを踏まえて、2月の中旬頃に再度ご審議して頂き、その内容をもって答申というスケジュールを考えている。委員の皆様には引き続き協力をお願いします。

以上

4. 閉会 環境課長